

プロジェクトの概要

- 仙崎(センザキ)湾周辺は、水産生物の生育にとって重要な藻場を形成するため、古くから藻類着生基盤となる石材や構造物による藻場造成を実施してきました。
- 近年、海水温の上昇やウニ類等による食害の影響により、藻場の減少が進んでいることから、地域の課題として藻場の回復・維持を掲げました。
- 藻場保全活動を効率的かつ継続的に実施するため、漁業者・長門市・県で構成する協議会を令和4年9月に設立し、組織的な活動に着手しました。
- 4漁協支店の海域毎に活動計画を作成し、藻場保全として「ウニ類の除去」「母藻の設置」、環境保全として「海底清掃」を実施しています。
- 核藻場としての機能発揮を目指し、活動範囲の藻場の被度向上を図るとともに、造成中の藻場を活動範囲に加えるなど、仙崎湾を拠点として活動していきます。

保全活動の状況



ウニ類の除去



母藻の設置



プロジェクトの特徴・PRポイント

- 藻場の回復により、美しく豊かな仙崎湾を取り戻し、地球温暖化の抑制や、地域の重要な産業である水産資源及び観光資源の確保に貢献します。
- 活動の広域的な認知度を高め、隣接する仙崎地方卸売市場や道の駅「センザキッキン」と連携した水産振興を目指します。
- 仙崎湾周辺の小学校児童を対象に、漁業者による藻場保全活動や藻場が果たす「海のゆりかご」としての役割などについて学ぶ、環境保全学習会を開催します。
- 下関水産大学校と連携して、藻場の現状把握と活動内容の検討を行い、効率的で信頼性の高い藻場保全活動を実施します。
- ブルーカーボン・オフセット制度を活用した藻場保全活動を通じて、カーボンニュートラルへの貢献を推進します。



プロジェクト協議会



環境保全学習会



お魚タッチングプール



食害生物の観察



パネル、活動動画展示